

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2015年6月号>

99号 2015.06.01 配信

同窓会総会の前日、全国的に雨の予報でした。ところが、光葉同窓会には多くの“晴れ女”がいるのです。全国の支部長の皆さまが仙台に到着するころは快晴に！新緑がきらきらと輝き、まさに“光葉日和”となりました。

## ■ 第42回 光葉同窓会総会特集

☆仙台「総会」開催にあたり横井千香子同窓会会長挨拶

2011年3月11日（金）14時46分、東日本大震災から4年経ちました。大震災後同窓会本部では被災地域の3,850人の安否確認をし、口座を開設して募金活動を開始、全国から574万円が寄せられました。亡くなられた5名のご遺族にお花料をお送りし、被災された方々には茜折りに「心ばかり」としたため、同窓会員の気持ちをお送りしましたところ、約500名の方々から、手紙、電話でお礼の声が寄せられました。あの方たちは今どうしているのか…。仮設住宅にはまだ4名の方がお住まいで不自由な生活を余儀なくされていると聞き、何とか東北を元気つきたい、東北を応援したいと願っていました。思いがかない今年度東北は、仙台で「第42回 光葉同窓会総会」を開催することが出来ました。開催に当たっては、坂東学長の多大なご尽力と、岩手日報社、河北新報社、福島民報社のご協力を頂き、東北6県の支部長、会員の方々のご協力のお蔭と深く感謝しております。同窓生一同が仙台に集い、少しでも「東北の活性化」にお役に立ったかなと思います。

### ● 5月16日（土） 2015年度全国支部長会（ホテルニュー水戸屋）

総会の前日に全国支部長（48名）の出席で開催しました。3月に設立した東京都西北6区支部をはじめ、新支部長からの挨拶をいただきました。

### ● 5月17日（日） 第42回 光葉同窓会総会（ホテルメトロポリタン仙台）

#### <1部 総会>

坂東眞理子理事長・学長をはじめ、来賓・恩師の皆さま、全国からの同窓生、第2部の公開シンポジウム参加を加えて約300名の光葉同窓会総会を開催いたしました。

#### <2部 公開シンポジウム>

☆総会第2部の被災地3県の新聞社と一緒に考える「公開シンポジウム」では、坂東学長の「基調講演」に続いて、パネルディスカッションが行われました。東北の新聞社3社の皆様に「報道機関としての取り組み」をお話頂き、女性が果たす役割の重要性を認識しました。

#### 基調講演

昭和女子大学学長 坂東眞理子先生

「女性が変える東北の未来、日本の未来 ～地域活性化に欠かせない女性の役割～」

「東北はこれから、皆さんがそれぞれによいビジョンを見つけていく。東北はみんなが協力して力を合わせて活性化していく、東北に共感する人が日本中、世界中にいます。いろんな人がかかわれるプラットフォームを創っていくことが必要と感じています」と語られました。

## パネルディスカッション

坂東眞理子学長にもご参加頂きディスカッションを行いました。

パネリスト 岩手日報社 編集局報道部 川端章子氏  
河北新報社 南三陸支局 古賀佑美氏  
福島民報社 編集局報道部副部長 角田守良氏  
コーディネーター 光葉同窓会会長 横井千香子

(要旨)

河北新報社南三陸支局の古賀佑美記者は、宮城県南三陸町の幼稚園の取材を振り返り、「園児が震災後に初めて空を泳ぐこいのぼりを見て歓声を上げた。当たり前な行事を当たり前にするのが大切だと痛感した」と述べられました。

岩手日報社報道部の川端章子記者は、同社が震災後に継続実施している遺族アンケートを紹介。「全国ニュースでハード整備が進んでいると取り上げられる一方で、心の復興は追いついていないことも理解してほしい」と呼び掛けました。

福島民報社報道部の角田守良副部長は、東京電力福島第1原発事故の影響を説明した上で、「国道6号や常磐自動車道の開通など前向きな記事も増えてきた。地域振興や風評被害の打破に取り組む女性も増えている」と強調されました。

\*5月18日の河北新報、岩手日報、福島民報に、シンポジウムの記事が掲載されました。

## <3部 懇親会>

宮城県・大槻ゆみ子支部長の司会で、来賓、恩師を交えた懇親会では、山形県支部会員による「花笠音頭」、岩手県支部会員による「コーラス」、福島県支部会員による「会津磐梯山」、青森県支部会員による「青森県紹介」、秋田県支部会員による「西馬音内盆踊り」、宮城県支部会員による「大漁唄い込み」が披露されました。東北6県の支部会の皆さまの「ありがとう、元気です!」というメッセージが強く、明るく会場に響き渡りました。

## ●5月18日(月) 光葉同窓会仙台ツアー ～復興応援 石巻と閑上を訪ねて～

[コース]

仙台駅→日和山公園/鹿島御児神社→中瀬/石ノ森萬画館(車窓)→サン・ファン館→松島(昼食)→閑上中学校(車窓)→日和山/閑上の記憶/慰霊碑 →さいかい市場  
→仙台空港→仙台駅 [参加人数] 81名

総会翌日は東北復興ツアーで「石巻と閑上」を訪ねました。閑上地区の仮設住宅に住む柿沼寿子さん、石巻被災地区に住む、大和郁子さんや永松眞帆さん方が、駆け付けて現在の状況をお話しされた時、思わず涙するお姿に、日々ご苦労されている心情を思いますと心痛みます。同窓会委員を中心に折った「千羽鶴」をお供えして、犠牲になられた方々の冥福をお祈りいたしました。

東日本大震災から5年目、今後も皆様と共に、東北地方の方々へはもちろん、全国の自然災害で被災されているの方々へも応援して参りたいと思います。



2015年5月18日(月) 閉上の日和山、「千羽鶴」をお供えし犠牲になられた方々のご冥福を祈りました

## ■ 『広げよう光の葉』

倉見 令奈 さん

1994年 短期大学部生活文化学科卒業

### 人に必要とされるために

卒業して21年が経ちました。卒業後は父の経営する建設会社に11年勤務し、その後(株)日本ホールマークに入社、まもなく丸10年を迎えます。どちらの会社も経理と総務を担当しています。社会人20年目を迎えて思うのは、無駄な日々や無駄な仕事というのはなかったということです。

仕事をしている時に常に意識していたのは、昭和女子大学の図書館に刻まれている「着実にして勤勉」でした。その言葉を胸に辛い仕事や人がやりたがらない仕事も地道に行うことができ、それが20年社会人を続けられた要因だと思っています。また、私の根底には「人に必要とされたい」という思いがあります。その為に日々どうすれば、周囲の役に立てるか、喜んでもらえるかを考えるようになりました。その繰り返しによって得た経験が、公私ともに私の強みとなっていると思います。

ホールマークは、アメリカで100年の歴史をもつグリーティングカード会社です。グリーティングカードとは、誕生日や記念日などに贈るカードの事です。メールが発達した昨今でもやはり手書きの持つぬくもり、カードに込めた思いというものは何にも変えられません。

人々の心に潤いや彩りを与えることのできる商品を扱う会社で働ける事に感謝してこれからも頑張っていこうと思います。

今秋からユニセフと提携しユニセフグリーティングカードの販売を開始いたします。興味のおありの方は、日本ホールマークのHPをご覧ください。

日本ホールマークHP：<https://www.hallmark.jp>

End